



第1136号

令和8年4月15日発行

目次



第29回「教育研究論文・教育実践賞」 審査結果報告……………2~4	ホームページ等のご紹介……………8
応募型研修助成のご案内……………5	長野県学事関係職員録P R……………8
教育研究所だより……………6	職員の異動について……………8
各種募集のご案内……………6	学び創造研究会P R……………9
災害見舞金のご案内……………7	Booklet 告知……………10
61才以上の皆さまへのご案内……………7	100年館の絵……………10



信濃教育会は、今年度で創設140年を迎えます。記念すべき節目の年を迎え、改めて、創設に向けた先人たちの熱い思いを受け止めたいと思います。

様々な時代の変遷を経ながらも、共に集い研鑽に励み信州教育を創造してきた本会の歩みを振り返るとき、私たちは信州教育の潮流の先端にいることに気付かされます。これからの新たな流れを、会員の皆様と共に創ってまいりたいと思います。

今夏には、第140回信濃教育会総集会長野上水内大会を、日本連合教育会研究大会長野大会を兼ね開催します。当日は、本会オーケストラと北信地区教職員で編成された合唱団による「信濃讃歌」の演奏もあります。多くの方にお聴きいただき、創設140年の節目を共に祝うことができれば幸いです。



5月の研修ガイド

- 16日(土) ●公益社団法人下伊那教育会総集会 ◎飯田文化会館 大ホール ◇大谷徹契(薬師寺副住職) ☆下伊那教育会 0265-52-0808
- 公益社団法人安曇野市教育会総集会 ◎豊科公民館 ◇「公教育を再考する～『多様性』と『ウェルビーイング』に着目して～」早坂淳(長野大学教授) ☆安曇野市教育会 0263-72-2430
- 更埴教育会総集会 ◎更埴教育会館及び郡市内各学校(ハイブリッド) ◇「絶対にあきらめない～地域と共に存続を目指す 銚子鉄道の挑戦～」竹本勝紀(銚子電気鉄道株式会社社長/税理士) ☆更埴教育会 026-272-0247
- 長野上水内教育会 令和8年度総集会◎長野上水内教育会館(ハイブリッド) ◇座談会「自律した学習者の育成～学びのその先へⅢ 学び続ける教師」コーディネーター:大日方貞一(信濃教育会会長)、助言者:岩川直樹(信濃教育会教育研究所所長) ☆長野上水内教育会 026-226-2458
- 20日(水) ●総研修会「仰望の日」◎伊那文化会館 ◇舞の海秀平(NHK大相撲解説者 元小結・舞の海) ☆上伊那教育会 0265-72-3416
- 26日(火) ●新任者研修会 ◎下伊那教育会館講堂 ☆下伊那教育会 0265-52-0808

●名称 ◎会場 ◇演題・講師等(講師名敬称略) ☆連絡先

令和7年度 第29回「教育研究論文・教育実践賞」 審査結果報告

第29回「教育研究論文・教育実践賞」の審査が終了しました。多数のご応募ありがとうございました。
特選論文は、雑誌「信濃教育」7・8月号に掲載いたします。また、7月2日（木）、3日（金）、6日（月）に入賞者によるオンライン上でのポスターセッション「教育実践 Web ラボ」を予定しています。

【第2次審査員】

小川 武紀（南牧北小学校長） 牛澤 栄二（和合小学校長） 細山 和寿（洗馬小学校長）
高坂 秀樹（松本市立本郷小学校長） 山口 美直（旭ヶ丘小学校長） 村田 忠久（飯山小学校長）

【第3次審査員】

茅野 公穂（代議員会代表・信州大学教育学部教授） 工藤 信一（外部審査員・信濃毎日新聞社論説委員）
勝野 学（常任委員会代表・松代小学校長） 野口 茂雄（幹事会代表・緑ヶ丘小学校長）

【応募総数及び入賞者の内訳】

応募総数 127	個人の一部 96	特選 1	準特選 2	入選 9	佳作・奨励賞 84
	グループの一部 31	特選 1	準特選 1	入選 4	佳作・奨励賞 25

【総評】 審査委員長 茅野 公穂

第29回「教育研究論文・教育実践賞」への応募は、個人の一部・グループの一部あわせて127件に及びました。いずれも地域や学校の特色を背景に、子どもを中心とした教育実践に実直に取り組み、今日的な教育課題の解決に寄与しようとする志に満ちたものでした。教育の目的・内容に相応しい教育方法を模索、論考した論文はもとより、児童生徒の自発的な問題意識が立ち上がる様子等と教師の直接的、間接的な関わりを、児童生徒や教師の熱気や葛藤が滲むほど丁寧に描写した論文もありました。同好会での学びを契機として教育実践を構想した論文や、学校のランドデザインを具体化し、ランドデザインの視点から実践の教育的意義を明らかにした論文があったことも付記しておきたいと思います。

特筆すべきは、成果の言語化に留まらず、実践を踏まえたからこそその次なる課題を明確にする姿勢です。子ども一人ひとりの今の願いや思いを受けとめようと、私たちは検討を重ねてもなお間違っているかもしれないという疑いや緊張感に向き合い続けています。あるいは、検討の暇もない事態への対処を余儀なくされることも少なくないでしょう。それゆえ、実践とその省察の累積性を高め、高度な専門性と倫理観を支える揺るぎない土台を築くのです。

論考の受け手である私たちもまた、これらの教育実践に埋め込まれた問いを自らに問い、自身の教育観や子ども観をはじめとする価値観、物事の捉え方や考え方を照らしてほしいと願います。他者の実践との対話を通じ、「私」や「学校」の枠組みを更新し、深化へ向かうささやかながらも確かな一歩を踏み出すことが肝要です。応募者のもとより、皆様の教育実践、教育研究がさらに深化し、各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動等、学校におけるあらゆる教育活動が一層充実することを期待します。

【後 援】長野県教育委員会 長野県市町村教育委員会連絡協議会 長野県小学校長会 長野県中学校長会
長野県特別支援学校校長会 長野県高等学校長会 長野県 PTA 連合会 信濃毎日新聞社

問いがつながり、ふるさとの価値を再発見する探究の軌跡

～佐野川の教材化を通じた、地域に誇りと愛着をもつ子の育成～

久保 文靖（治田小学校）



負のイメージだった佐野川を教材化したいと考え、児童と生物調査や上流の鉱山探し、砂金採り、活動資金として大根栽培や販売といった探究活動を通じ、地域への誇りや愛着を育てていった児童の変容が嬉しかったです。

【講評】 勝野 学

学校の近くを流れる佐野川について、教材化し、子どもたちが自ら問いを立てて探究を積み重ねていくことで、地域の価値を再発見し、地域への誇りと愛着を育みたいと考えた実践である。

まず、理科教育研究会で学んだことをベースに、徹底的な素材研究を行っていたことが、子どもたちの前に立つ教師として当たり前なことではあるが、その熱意には圧倒される。そして、子どもたちの疑問を上手に吸い上げ、問いとして学習が成立するよう導いていた点も評価できる。子どもたちの様々な調査活動やそのための準備活動、実際の体験等、子どもたちの意識の流れを大切にしている点も読み手にとって大変参考になる。総合的な学習の時間の枠だけでなく、教科横断的に学んでいる点も評価できる。さらに、身近に流れている川には、多くの謎がありそれを解明しているところは、大人でも興味が湧いてくる内容である。

論文としても、事実と考察を丁寧に記述し、成果と新たな課題を明確に記述しているため、読みやすく価値のある実践文となっている。これらのことから、本論文は、具体性があり内容的にも興味が湧く実践で、今後一般化できるものとなっていることや、何よりも、子どもたちの笑顔や、疑問をもったであろう顔、達成感を味わった顔等が容易に推測でき、多くの学びを得ているだろうと感ずることができる実践であることが高く評価できる。

グループの部

提案から実践へ、

そして次期学習指導要領を見据えた探究学習

～山ノ内中学校3学年のESD学習における「真正の学び」～

山ノ内中学校3学年（山ノ内中学校）



地域と協働し、提案で終わらない探究を通して、生徒が判断と行動を更新し続ける学びを模索しました。生徒と教員が共に探究する本校の学びを持続的に発展させるため、研究をさらに深化させていきます。

【講評】 野口 茂雄

自校の3年間の総合的な学習の時間を、学びの本質に着目し、見返して修正・強化を図ることで、生徒の学びの質の転換をスムーズかつ効果的に実現させた実践である。

同校は平成29年よりユネスコスクールに認定されESDフロンティア校ではあるが、調査のまとめを町へ提言するスタイルの学習、加えて「行事総合」学習では、将来の社会の担い手となる生徒の身につける課題解決力の育成の面で不十分ではないかという疑問から研究をスタートさせている。そして次期学習指導要領の目指す方向を、「真正の学び」に寄せながら、子どもたちの山ノ内町の様々なりソースの調査や試行錯誤を経て、町の推しや売り、持続可能性を探究的に深めていく様子が実証的に展開されている。「実践過程における検証と改善」を探究のゴールに置いているため、地元産のりんごのスイーツ化や一見奇抜とも捉えられる地域でのコスプレイベントの開催も、再考に再考をくり返し、粘り強く実現化を図っていく様子が生き生きと論じられている。学びの過程を大事に扱っている。

本稿は、3学年の総合的な学習の時間を対象としつつも、生徒の学びの育ちを軸に、実践的かつ分析的にカリキュラム・マネジメントの検証を図っている点で高評価を得た。生徒の熱意や意欲の高まりも感じられる。自校の実践を丁寧に見返し、探究の視点から再構成して計画・実施する手法は、学校規模に関わらず、どの学校にとっても示唆に富む内容であり参考となるものである。

準特選作品

【講評】 工藤 信一

ICTを活用した授業の在り方 一つながり、深まる学びの実現—

中村 淳志（聖南中学校）

【講評】 ICT 機器を学校現場で実際にどう使うかは、まだ手探りが続き、学校によっても、各校の内部でもばらつきが大きい。ICT ありきではなく、「アナログ」の授業と相互補完して、どう学びに生かせるか。一つの手引きとなる実践だ。一つ一つの取組について、生徒の姿を語るだけでなく、教師として考えたことを丁寧に書いているのが参考になる。

身近な学校文化を起点とした探究が 社会参画へと広がる学び

—白馬北小学校「ジャンプ台直し隊」による GCED の実践—

塩原 一矢（白馬北小学校）

【講評】 スキーのジャンプ台がある学校は全国でも数少ない。老朽化して使えないのを何とかできないか。4年生が資金を集め、修繕に取り組んだ。物怖じしない行動が地域の内外に反響を呼び、それが子どもたちの学びと行動をさらに広げていく。引き込まれる実践だ。論文としてもまとまってはいるが、やや型通りか。平板でない視点がほしかった。

子どもと地域のウェルビーイングの実現を目指す総合的な学習の時間

～「うえだみどり大根」を育て・広めた2年間の挑戦～

上田市立城下小学校4学年会（城下小学校）

【講評】 生産量が少なく上田でもあまり知られてはいないという地大根のPRに、子どもたちが2年がかりで取り組んだ実践の報告だ。生産者や地元の飲食店と協力して新しい料理を共同開発し、それが看板メニューにもなっていく取組は、なかなか本格的。地元の大人たちが無理して子どもに付き合っているようなところがなく、生き生きとした活動の様子が伝わる。地域に根差した実践として参考になるが、先生たちがどうか変わったのが報告からは見えてこない。それがあればなお良かった。

入選作品

- 生徒が主体的に学べる社会科とは？ 池田 一貴（軽井沢中学校）
- 誰でもすぐできて、楽しみながら学べる対話型鑑賞の方法の模索
～中学校美術科授業における新しい鑑賞分野の学習指導「ブラインドトーク」の提案～
北崎 知菜（塩田中学校）
- 生徒と地域の方のゆるやかなつながりを作るコミュニティスクールの活動 馬場 直樹（諏訪中学校）
- 誰一人も取り残さない体育授業の創造
—インクルーシブな視点から再構成したベースボール型授業の実践— 寺川 耕平（伊那西小学校）
- 主体的・対話的で深い学びを実現する質の高い探究のあり方
—「地域の現地・現物・現実」を中核としたふるさと学習の実践を通して— 月岡 純平（竜東中学校）
- 「自立した学習者」の育成に向けた取り組み
～授業・行事・自治活動を貫く主体性の育成を通して～ 小林 俊彦（西部中学校）
- 生徒参画型の学校改革実践について 小林 正樹（信濃小中学校）
- 人とのかわりの中で育まれる「居場所」 ～総合的な学習の時間への取組を通して～ 熊谷 航（通明小学校）
- 松本山雅FCと盛り上げるわたしたちの松本市
—「社会」と「わたし」を結ぶ探究的な学びを通して— 北澤 亮介（信大附属松本小学校）
- 『縦割り総合』による“探究的な学び” ～地域のために「自分達は何ができるか」を問い続ける探究的な学び～
佐久市立東中学校（佐久市・東中学校）
- 高遠北小学校における表現活動 表現部会（高遠北小学校）
- 特別支援教育の視点を取り入れた体育科の授業改善 特別支援教育部会（赤穂東小学校）
- 探究的な学びの全校研究～学び続ける学校をつくる～ 研究推進委員会（開智小学校）

応募型研修助成



R7年度からより多くの会員にご利用いただくために、実施内容を一部変更しました。特に、「学び続ける教師への助成」には特別支援教育にかかわる助成も加えました。申請の際は、信濃教育会ホームページでよく確認してからお申込みください。

学校

自主的校内研修補助

- 学校独自に行う研修への補助 ※毎年申請可
- 補助金は、1校10,000円 + 20,000円 × 会員率（会員数/県費教職員数）
- 講師（校内講師は対象外）謝礼、資料作成等、研修に必要なものへの支出

個人

短期視察研修補助

- 補助金は、会員本人への補助、所属校へは後補充者への謝礼補助
- 1日15,000円を基本額とし以後1日につき5,000円を増額
- 補助金は2年に1度（郡市教育会の補助を受けている場合は原則対象外）
- 「学び続ける教師への助成」と同一年に重複して受けられない

個人

学び続ける教師への助成

- 助成金は、会員本人への助成
- 学術分野における研究調査活動並びに専門的な知識・技能の習得（スキルアップ）に対する助成
- 助成金は1人上限50,000万円、助成は2年に1度
- 「短期視察研修補助」と同一年に重複して受けられない

- 〔助成の例〕
- 個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学び等に関する研究
 - 自然科学及び人文科学に関する研究調査
 - 特別支援教育にかかわるスキルアップ 等

申し込みについて

※「自主的校内研修補助事業」は**6月末日まで**に申込書を提出下さい。
「学び続ける教師への助成事業」及び「短期視察研修補助事業」は予算額が終了した段階で**申込みを終了**と致します。

申請につきましては、こちらのHP【二次元コード】から【研修補助金】をご覧ください！



教育研究所だより

教育実践の『振り返り』と『学び合い』

令和8年度 創設80年目を迎え、
新しい研究員の研究が始まりました

第80期研究員の先生方6名は「子どもの学びが深まる授業づくり」をテーマに研究に取り組めます。

第79期研究員の先生方6名は、教育現場に戻り、実践研究に取り組んでいます。



第80期 研究員紹介

① 趣味 ② 最近読んだ本



- ① DIY、家族と過ごすこと
- ② 『夢と金』(西野亮廣)

諸星 達也



- ① 音楽鑑賞、家庭菜園
- ② 『好き』を言語化する技術』(三宅香帆)

伊藤 豊



- ① ドラマ・映画鑑賞
- ② 『マスクレード』シリーズ(東野圭吾)

木田 聡史



- ① 登山
- ② 『歩くを楽しむ、自然を味わう フラット登山』(佐々木俊尚)

依田 恵



- ① 野球
- ② 『沖縄文化論-忘れられた日本』(岡本太郎)

服部 伸也



- ① ドライブ、スキー
- ② 『もしも彼女が関ヶ原を戦ったら』(真邊明人)

池田 勇作

公募委員、講座・講習等の募集申込みが始まりました



● 申込締切日／内容

5/8 (金) 「探究的な学び」研究調査委員会

5/13 (水) 県歌「信濃の国」を訪ねて

NEW

5/8 (金) 基礎講座「合唱」

5/21 (木) 「極意」伝承道場

5/11 (月) 基礎講座「オーケストラ」

5/21 (木) 信州教師塾A①

各種申し込みはこちら



詳細は信濃教育会HPのトップページ下部、「各種申し込みはこちら」をご確認ください。

災害見舞金事業のご案内

会員であれば見舞金が支給されます！！

災害や日常生活でのケガなどが対象となります。

ニックネームは“SSS”（スリーエス）。以下のような意味を込めて考えていただきました。

「信教」「災害」「サポート」 又は 「すぐに」「知らせて」「支援を受けよう」

令和8年度より災害見舞金を一部改正しています。詳細についてはホームページをご覧ください。

令和7年度の見舞金支払状況

<見舞金交付該当数と見舞金総額>

該当数：57名（件） 総額：13,136,000円

内訳と詳細	該当数	見舞金支払額
死亡	7名	10,500,000円
災害入院	12名	907,500円
災害通院	37名	1,154,500円
自然災害による不動産の損害	1件	574,000円

令和8年3月31日現在

年度年齢61歳以上となる皆さま

明日も笑顔で！



「安心」をサポートする災害見舞金の増額を図る一方、会費の改正もしています。

会費月額500円
(5月～2月) 年度年齢61歳以上

&

災害見舞金の増額

後に続く教職員の学びの充実のためには、61才以上の皆さまのお力が必要です。会員であればこれまで同様、信濃教育会のすべての講座・講習、研修会の参加費が無料です。実年会員の皆さまにとりましても魅力的な信濃教育会事業としてまいります。引き続き会員として共に学びましょう。

50代後半からの実年会員の皆さまに特にお勧めしたい

講習・講座のご案内

● 信濃の魅力再発見 7/31

南信州 下栗の里を訪ねる臨地講習

日本の里100選に選ばれ、日本のチロルと呼ばれる下栗の里の見学を通して、日本の原風景を味わいます。

● 県歌「信濃の国」を訪ねて 6/6、10/17

信濃教育会140年記念事業 生涯学習講座

宮下健司先生を講師に迎えて、作曲時の時代背景と歌詞に込められた自然や事物等について講義と臨地講習で学びます。

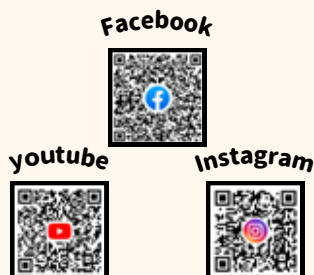
最新情報を発信中 / ホームページ・公式SNSのご紹介



信濃教育会ホームページは「総集会」「Afternoonセミナー」「哲学の道」などのアーカイブ配信、研究所の岩川所長インタビュー、生活科授業実践動画等々、会員限定のコンテンツが充実！！

また、SNSでは各種研修会の告知・報告の他、信教の様々な話題をタイムリーに発信しています！ぜひご活用ください。

パスワードは
会報をご覧ください



長野県 学事関係職員録

5月末より新年度版
長野県学事関係職員録が
発刊されます！
ご注文はお早めに！



申込み切：4月21日
(注文は学校ごとにとりまとめていただきます)

定価 2,000円
追加注文も承っておりますが
送料が別途発生いたします。



お楽しみに★

今年度の表紙は

注文方法は、各学校職員録注文担当者にお尋ねするか、信教HP【学事関係職員録】をご覧ください。

信濃教育会職員の異動についてお知らせします。

退任

原 文章
(事務局次長兼信濃教育博物館部長)

細萱 利子
(信濃教育会生涯学習センター嘱託職員)

楢本 美和
(研究調査部兼総務部嘱託職員)

伊藤 和子
(信濃教育会生涯学習センター嘱託職員)

新任



土屋 次男
事務局次長 兼
信濃教育博物館
部長

各研究の公開日が決まりました！



令和8年度の研究の募集に際しましては、多数のご応募をいただきありがとうございました。18研究と共同研究者の皆さまで研究を進めていく事が決まりました。今後は信濃教育会ホームページを中心に、各研究の進捗状況[私たちと子どものあゆみ]、当日の日程、資料等を随時お知らせしていきます。ぜひ、ホームページを覗いてみてください。



上段：研究者 / 研究校 下段：共同研究者

<p>▶ 岡谷市立岡谷北部中学校 二木 治樹 県 NIE 推進協議会 10/7(水) 授業づくり</p>	<p>▶ 長野市立緑ヶ丘小学校 青山 由貴枝 長野県立美術館 11/17(火) 図工</p>
<p>▶ 長野市立櫻ヶ岡中学校 渡辺 貴裕 東京学芸大学 10/20(火) 学級づくり</p>	<p>▶ 下諏訪町立下諏訪南小学校 岩川 直樹 信濃教育会教育研究所 11/18(水) 探究的な学び</p>
<p>▶ 三枝 祐紀 (八坂小中) 楠見 友輔 信州大学 10/22(火) 学校づくり</p>	<p>▶ 松川町立松川北小学校 山浦 貞一 信州大学 11/18(水) 個別最適・協働</p>
<p>▶ 遠山 恒輝 (埴生中) 大井 和彦 信州大学 10/30(金) 国語</p>	<p>▶ 須坂市立須坂小学校 ・須坂支援学校 楠見 友輔 信州大学 11/18(水) 学校づくり</p>
<p>▶ 伊那市立伊那中学校 谷内 祐樹 信州大学 11/6(金) 探究的な学び</p>	<p>▶ 伊藤 真紀 (信濃小中) 佐藤 和紀 信州大学 11/20(金) 授業づくり</p>
<p>▶ 山田 裕也 (屋代高校附属中) 佐藤 大樹 国立教育政策研究所 11/6(金) 英語</p>	<p>▶ 塩原 一矢 (白馬北小) 藤田 育郎 信州大学 11/26(木) 体育</p>
<p>▶ 田口 智一 (旭ヶ丘中) 香山 瑞恵 信州大学 11/11(水) 理科</p>	<p>▶ 佐久市立浅間中学校 藤森 裕治 文教大学 11/27(金) 総合的な学習の時間</p>
<p>▶ 松本市立清水中学校 東原 義訓 信州大学 11/11(水) 授業づくり</p>	<p>▶ 花岡 真子 (塩田西小) 岩川 直樹 信濃教育会教育研究所 11/27(金) 学級づくり</p>
<p>▶ 白馬村立白馬南小学校 蓑手 章吾 HILLOCK 初等中等部 11/17(火) 音楽</p>	<p>▶ 寺川 耕平 (伊那西小) 近藤 智靖 日本体育大学 11/27(金) 体育</p>

上記内容は令和8年4月時点の情報です。

『Booklet信教』が変わります

・「学び創造研究会」の情報を発信します

これまでは多様な内容を掲載してきましたが、今年度より「学び創造研究会」の情報をメインにお届けします。なお、ご好評いただいていた企画「Step by Step」は『信濃教育会報』5月号に掲載いたします。

・Web版と冊子版の2本立てになります

Web版（7・9月）：各研究のあゆみを発信

冊子版（1・2月）：1年間の研究報告を発信

冊子版はこれまで同様、県内の小・中学校、特別支援学校、義務教育学校へ贈呈いたします。

今後も皆さまの教育活動にお役立ていただけるよう努めてまいります。

引き続きご愛読くださいますようお願い申し上げます。

信濃教育

予告



私の「学級づくり」

学校で孵化したニワトリのヒナ「ピーちゃん」は、二年生の廊下から見える中庭で飼育されています。子どもたちはピーちゃんと遊ぶことが大好きで、抱っこしたり追いかけてたりしながら親しんでいます。そんな日常を題材に、図工の授業で作品を制作しました。黒い画用紙に手形を取り、羽やくちばし、しっぽに見立てて組み合わせる表現しました。手形はステンドグラスのように白で縁取り、色同士が引き

立つよう工夫しています。背景はスポンジで青い空や野原をやさしく色づけました。「中庭には花がないから、花や友だち、動物も描きたい」と夢中なる明璃さんの姿から、発想の広がりや豊かな表現意欲が感じられました。完成後は黒板に掲示して鑑賞し、「イメージ通りにピーちゃんと遊ぶ様子が表せた」と満足そうに笑顔で振り返っていました。

指導者
渡邊久美江（浅科小学校）

100年館の絵

令和7年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「お花ばたけであそぶピーちゃんと
いっしょにあそぶわたし」
根岸 明璃（浅科小二年）

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026 (232) 2470
URL <https://shinkyō.or.jp> ✉ shinkyō@shinkyō.or.jp
編集兼発行人／大日方貞一

